

## Quality assurance for HOSEI

法政大学総長室付大学評価室 <http://www.hosei.ac.jp/hyoka>  
No.10 通巻10号 2012年5月発行

### カリキュラムに重点をおく自己点検

大学評価室長 公文溥 1

### 認証評価申請について 2

### シリーズ「学士力の質保証を考える」対談(第2回): 「国際社会人」に必要な学士力とは

大学評価室長 公文溥 × 国際文化学部長 鈴木靖 3

### 保護者アンケートの結果から 4

### 米国調査報告 5

### 活動報告／編集後記 6



大学評価室長  
公文 溥

#### MESSAGE

#### 1

### カリキュラムに重点をおく 自己点検

本学が新しい自己点検評価のシステムを構築して4年目に入ります。これは、認証評価機関が大学に自律的な質保証のメカニズムをつくるよう要請したことに応えたものでした。

本学は今年、大学基準協会による認証評価をうけます。書面評価と実地調査に肅々と対応する必要があります。

今年度の課題は、法令による義務を果たすとともに、年々の質保証の活動を制度化することです。質保証は、大学の二つの機能である教育と研究のうち、とりわけ教育に焦点を合わせたものと理解できます。そこで評価の対象を絞り、かつ内容を深化することになりました。これまで大学

基準協会が設定するすべての項目を対象としてきましたが、今年度は、カリキュラムに重点をおくことにしました。カリキュラムの体系性、教育内容、方法、そして成果について、これまで以上に踏み込んだ現状分析を行うこと、そして具体的な到達目標を設定し、達成することです。学部等の自己評価と評価委員会の評価はこうした視点から実施します。その目的は評価を通して学生の能力育成と向上を支援することです。教職員の皆さまには、内部質保証の進化にむけた創意ある活動を実施していただくようお願いいたします。

## 認証評価申請について

### 評価までの流れ

本学では、昨年来、2012年度の認証評価申請に向けた準備を進めてきましたが、この度、3月30日に、公益財団法人大学基準協会へ認証評価申請用の「点検・評価報告書」、「大学基礎データ」、「根拠資料」を提出いたしました。今後は、本申請書等に基づき、書面評価、実地調査が行われ、2013年3月上旬に評価結果が送付される予定です。ここでは今後のスケジュール等について説明いたします。

### 今後のスケジュール

#### 4月～9月 書面評価への対応

大学基準協会の大学評価委員会の下に設置される大学評価分科会及び大学財務分科会が書面評価を行います。評価者の要請により、追加資料の作成・提出が求められます。

評価は、「基盤評価」と「達成度評価」の2つで行われます。

#### ▶基盤評価

大学に共通して求められる学校教育法や大学設置基準等の法令要件が遵守されているかどうかの評価です。

#### ▶達成度評価

理念・目的、教育目標を達成するために大学がどのような努力を払っているか、それがどの程度達成されているかという観点から行われる評価です。

なお、どのような視点で評価が行われるかを示した「評価に際し留意すべき事項」が公表されています。

#### 9月～10月 実地調査への対応

評価の正確性・妥当性を確保するに十分な情報・資料等を収集することを目的に、2日間にわたって市ヶ谷キャンパスで行われます。実地調査では、大学関係者との意見交換のほか、学生インタビュー、施設・設備の見学、授業参観等が行われます。

#### 12月 意見申し立て

12月下旬に大学評価結果（委員会案）が送付されます。①事実誤認はないか、②ある学部・研究科等に対する提言、指摘事項が他の学部にも該当しないか、③社会から誤解を招くような表現が含まれてないか、を確認し、その結果を意見として申し立てることができます。

#### 2013年3月 大学評価結果の受領

「大学評価結果」が通知されます。評価結果は、「Ⅰ 認証評価結果」「Ⅱ 総評」「Ⅲ 大学に対する提言」で構成されます。特に、「Ⅲ大学に対する提言」は「長所として特記すべき事項」「改善勧告」「努力課題」で構成されます。

#### 「長所として特記すべき事項」

大学が掲げる理念・目的、教育目標の実現に向けて有効性が顕著に認められる取り組み、あるいは特色を示すものとして特記すべき取り組みを示し、その取り組みをさらに伸長させるよう促すものです。

#### 「改善勧告」

法令違反など大学としての最低要件を満たしていない、もしくは改善への取り組みが十分ではないという事項に対し、早急にこれを是正する措置を講じるとともにその結果を3年以内に「改善報告書」として取りまとめ、大学基準協会に提出することが求められるものです。

#### 「努力課題」

大学としての最低要件は満たしているものの、理念・目的・教育目標の達成に向けた一層の改善・改革の努力を促すために提言するものです。「改善勧告」同様、3年以内に改善報告が求められるものの、それらにどのように対応するかは原則として各大学の判断に委ねられています。

以上のように、認証評価は1年間の長丁場となります。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

## シリーズ「学士力の質保証を考える」対談（第2回）： 「国際社会人」に必要な学士力とは

公文 溥 [大学評価室長] × 鈴木 靖 [国際文化学部長]

各学部における教育の質保証に向けた取り組み・成果について、大学評価室長と学部長との対談形式でお伝えするシリーズ「学士力の質保証を考える」の第2回目です。今回は、国際文化学部長の鈴木靖教授にお話をうかがいました。

### ＋国際文化学部の教育の質向上への取り組み

**公文** 国際文化学部における教育の質向上への取り組みをおうかがいしたいと思います。

**鈴木** 自己点検活動を行う中で、学部の教育、理念及び目標について学部内での議論が進みました。国際文化学部の理念は「国際社会人」の育成です。「国際社会人」とは即ち、①偏狭なエスノセントリズム（自民族中心主義）に陥ることなく、相手の立場に立って考えることのできる共感  
鈴木国際文化学部長  
力を備えており、②歴史の評価に耐え得る正しい判断ができ、③民族や宗教、国家の壁を超えて敬愛される人材のことです。この理念は「履修の手引」に掲載するとともに、新入生オリエンテーションで学生が理解しやすいよう、魯迅の恩師である藤野厳九郎を一例として取り上げ説明しています。オリエンテーションには全専任教員が出席するため、学部の教育理念を再確認する機会にもなっています。



教育の質向上への取り組みとしては、専任教員が少人数制で行う「チュートリアル」の設置が挙げられます。これは1年生の前期登録必修科目で、教員と学生とが膝を交えながら、大学での学びについて学習します。この科目では、学生に「チュートリアル自己評価シート」を配付し、授業の共通課題についての習得や認識の度合いを5段階で自己評価させています。シートは学生の成績評価には使用せず、教員による「チュートリアル報告会」で使用します。ここでは、初年次教育を効果的に行うため、教員全員のシート及び「学生による授業改善アンケート」を公開し合い、授業の改善と平準化に役立っています。

**公文** 画期的な取り組みかと思いますが、実現するのは大変だったでしょう。

**鈴木** 2009年度に学部内に「初年次教育検討委員会」を設置し、その答申を受けて教授会で議論を尽くし、2012年度からの実施が承認されました。

### ＋スタディ・アブロード（SA）の理念・特色

**公文** 国際文化学部のSAの理念を教えてくださいませんか？

**鈴木** これからの言語教育を考える上で参考になるのが、EUの取り組みです。国家間の軋轢を克服し、地域統合を実現したEUは、その基本権憲章の中で文化、宗教とともに、言語の多様性の尊重を謳い、母語と英語だけに止まらない多言語主義教育を推進しています。国際文化学部では7言語圏10カ国に学生を送り出すことで、学部の中に多

言語主義・多文化主義を醸成し、教育理念である「国際社会人」育成のカリキュラム的基盤としています。

**公文** SAでは事前学習や事後のフォローなど、対応をされていると思います。

**鈴木** 情報メディア教育研究センターの協力のもと、試験的にeポートフォリオを活用しています。授業支援システムでは年度が終了すると情報がクリアされてしまいますが、学習成果物の自己管理を基本理念とするeポートフォリオでは、学生に年度を越えた4年間の学習の軌跡を考えさせることができます。

現在はその手始めとして、SAに関する教員・学生間、学生相互間の情報交換と、帰国レポートの公開の場として活用しています。現地にいる先輩と後輩の交流の場にもなっていますから、留学に必要な生活情報や危機管理情報等をリアルタイムに交換することができます。将来的にはSAだけでなく、チュートリアルやゼミ、卒業研究などにも活用できればと考えています。

### ＋ブレンド型学習の導入

**公文** 自己点検懇談会で鈴木学部長がブレンド型学習の導入について話をされ、感銘を受けました。

**鈴木** 教室での対面学習と自宅でのeラーニングを組み合わせた学習方法をブレンド型学習といいます。双方のすみわけと連携を行うことで学習効果を高めるもので、教員はインターネットを通じて個々の学生の自宅学習の状況を管理し、メンタリングを行うこともできます。この方法は授業の共通テキストと同期することでより効果を挙げ、昨年度の実績でいえば、SAクラスの学生のほとんどが、他大学が4年間の目標としている語学検定試験のレベルを2年弱で取得することができました。

### ＋学士力—さらなる教育成果の検討

**公文** 最後に国際文化学部が考える学士力とは何でしょうか。

**鈴木** 学部の理念に即していえば、「国際社会人」としての理性、感性、徳性を身につけることですが、同時に社会的要請にも応える必要があります。海外に出ることを望まず、対人コミュニケーション能力にかけるといわれる現代の若者たちに、SAや少人数制のゼミを通じて、国際社会で生きる力を与えること、さらに現代社会に不可欠なICTのカリキュラムを充実させることで、就業力の育成にも力を入れています。

**公文** 学部の優れた取り組みがよくわかりました。本日はありがとうございました。



## 保護者アンケートの結果から

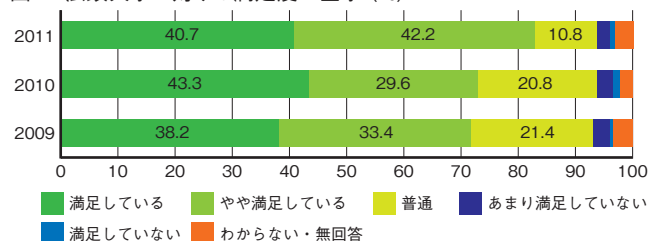
経年変化を中心に

大学評価室では、2011年11月から12月にかけて学部学生の保護者2000名を対象にアンケート調査を実施しました。2009年度から毎年実施しているもので、今回で3回目となります。今回は799名（回収率約40%）の保護者の皆様からご回答を頂きました。その結果を、抜粋して紹介します。

- ① 法政大学への満足度は82.9%（前年比約10ポイント上昇）
- ② 入学学部への満足度は72.3%（前年比約10ポイント上昇）
- ③ 本学が今後さらに充実すべきは就職支援
- ④ 約7割の方が情報提供に満足と回答
- ⑤ 半数以上（55.6%）が「法政大学を勧めたい」

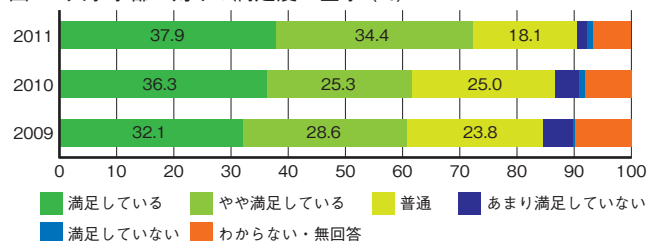
### I 法政大学および入学学部に対する満足度

図1：法政大学に対する満足度 全学（%）



法政大学に対する満足度（「満足している」＋「やや満足している」の割合）は82.9%でした。2010年度に比べ、10ポイント以上アップし、過去3年で最も満足度が高い結果となっています。

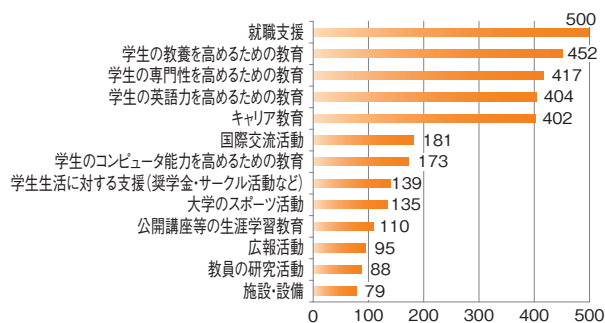
図2：入学学部に対する満足度 全学（%）



入学学部に対する満足度は72.3%でした。こちらも昨年度よりアップしました。

### II 本学が今後さらに充実すべき点

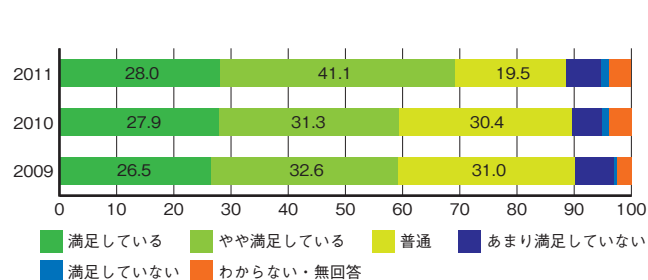
図3：本学が今後さらに充実すべき点（回答数）



最も多いのは就職支援です、なお、上位5項目は、2010年度と同様となっています。

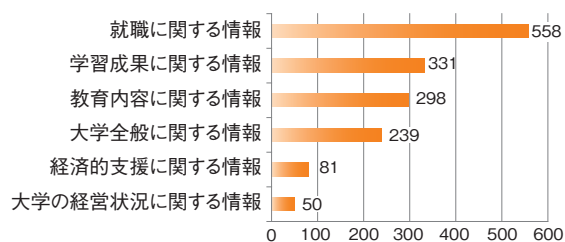
### III 情報提供について

図4：情報提供の満足度（%）



約7割（69.2%）の方が満足と回答しています。2010年度に比べて約10ポイント上昇しました。

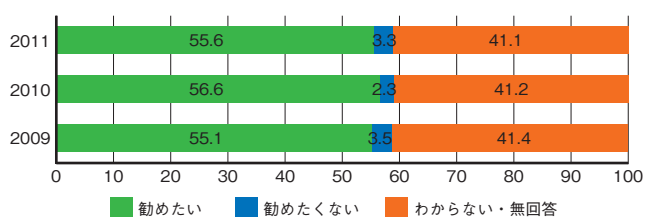
図5：さらなる発信を望む情報（回答数）



就職に関する情報の要望が圧倒的に多くなっています。

### IV 法政大学を勧めたいと思うか

図6：法政大学を勧めたいか（%）



3年間ほぼ同じ傾向となっています。

アンケート調査の詳細については、大学評価室までお問い合わせ願います。

## 米国調査報告

米国大学における内部質保証システムを訪問調査しました。

2012年2月13日～19日、アメリカ西海岸にある西部地区基準協会を訪問し評価システムの概要を調査しました。その後サンフランシスコ州立大学、サンフランシスコ大学、南カリフォルニア大学、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校の4つの大学を訪問し、質保証システムの実際についてインタビュー調査を行いました。海外調査は昨年のヨーロッパ訪問調査に続くものです。今回はアメリカのカリフォルニア州のみの訪問でしたが、本学の参考になるように、大規模総合型、研究重視型、教育重視型などの観点から訪問先大学を検討しました。選定にあたっては先進的な国別の質保証システムの調査実績のある(公財)大学基準協会のご高見をいただきました。各大学での聞き取り項目は主に、①法人および学部内の内部質保証システム、②教育プログラム評価の実際、③ラーニングアウトカム評価の方法と指標などです。

なお本学の調査団は、公文溥大学評価室長(社会学部教授)、上林千恵子社会学部教授、山田佳男大学評価室課長の3名でした。以下に訪問機関の一部の概要をご紹介します。

### ■西部地区基準協会 (Western Association of Schools and Colleges: WASC)

面談者: Dr. Richard C. Osborn, Vice President, Dr. Diane A. Harvey, Vice President

アメリカでは6地区に分かれて認証評価機関が存在しており、西部地区基準協会は、カリフォルニア州、ハワイ州、グアム、メキシコを管轄しています。対象となる4年制大学は163大学です。各大学は6年ごとにWASCによる機関別評価を受ける必要があります。WASCの認証は、学生が連邦政府・州政府からの奨学金貸与の受給資格とリンクする仕組みとなっており、それ故WASCの評価が権威づけられていて、各大学が質保証の活動に真摯に取り組んでいる背景ともいえます。各大学はWASCとの連絡役として、役員クラスのLiaison Officerを置いて対応しています。



WASC前

### ■サンフランシスコ州立大学 (San Francisco State University)

面談者: Dr. Helen Goldsmith, Associate Dean of Undergraduate Studies, Dr. Brian Beatty, Associate Professor and Chair of Graduate College of Education, Instructional Technologies 他1名

カリフォルニア州高等教育制度には、UC(カリフォルニア大学)システム、CSU(カリフォルニア州立大学)システム、カリフォルニア二年制大学(California Community Colleges, CCC)システムの3種類があり、サンフランシスコ州立大学は、後述するカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校と同じくCSUシステムに所属する23大学のひとつです。学生数は10学部で学部生25,000名、大学院生4,200名です。



対談風景

Degreeプログラム毎に実施される毎年のアニュアルレポートでは、学生のラーニングアウトカム結果を加味して評価しています。それに加えて6年に一度プログラム全体のレビューを行っています。大学全体の質保証委員会を設置し、学部単位では、Council (Team)を構成して質保証に取り組んでいます。外部評価委員には、他のCSU系大学から委嘱されています。

### ■カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校 (California State University, Los Angeles)

面談者: Dr. Cheryl Ney, Associate Vice President for Academic Affairs, Dr. David N. Connors, Acting Director, Program Review and Assessment, Dr. Steve Jones, Acting Dean, Undergraduate Studies, Professor of English 他3名

1947年設置、ロサンゼルス市内にあるCSUシステムの州立大学。6学部15,000名以上、大学院生は5,000名以上在籍しています。

6年間のプログラムレビューが計画化されています。1年目は自己点検報告書作成、2年目は外部評価委員による評価と学内プログラムレビュー委員会による評価、3年目はアクションプラン策定と承認、4～5年目アクションプラン実施、6年目アクションプラン報告といったPDCAサイクルを学部ごとに廻しています。同時にAnnual Reportの際に、CLA (Collegiate Learning Assessment) やNSSE (National Survey of Student Engagement) を利用しています(補助金制度あり)。



対談風景

※紙面の関係で今回報告できなかったサンフランシスコ大学および南カリフォルニア大学を含む最終報告書は後日発行予定です。

インタビューを通じて各大学では共通してプログラム評価体制が確立されていることが良くわかりました。一つには、その背景として、認証評価機関による評価結果を、連邦政府および州政府が重視し、教育政策に反映させるとともに、評価を受けた大学に補助金を支給することがあります。特に州立大学では、認証評価(内部質保証)に対して、大学関係者は真剣に取り組んでいる印象を持ちました。もうひとつは、外部委員の評価結果や学生のアウトカム評価の結果が内部質保証に有効に活用されている点です。これらの結果を踏まえて学内の評価委員会が評価を行い学長に報告しています。本学ではこれらが独立的に実施される傾向がありますが、次期評価体制ではこれらが有機的に機能するようしくみを検討する価値があるように思います。

最後に内部質保証とはこれ自体を目的化するべきではなく、大学戦略や教学改革の原動力として活用できるようなIRシステムと連携して進化していく必要があると思いました。2年連続して入試期間を利用した調査でしたが、大変多くのことを学ぶことができました。関係各位に感謝いたします。(山田記)



## 国際シンポジウム「グローバル化時代における私立大学の質保証」を開催しました。



基調講演

3月1日、大学評価室主催・教育開発支援機構FD推進センター共催によるシンポジウム「グローバル化時代における私立大学の質保証 第2回」を市ヶ谷キャンパスのスカイホールで開催しました。本シンポジウムは、大学評価室が推進する先進的の大学評価システム調査研究事業の一環として行うもので、2010年10月に続き、2回目の開催となります。当日は年度末にもかかわらず学内外より100名を超える参加者がありました。

基調講演では、英国バーミンガム大学よりクリス・ブラッドレー博士をお招きして、同大学における質保証システム(BIQAES: The Birmingham Integrated Quality Assurance and Enhancement System)についてご講演頂きました。実際の評価様式に触れながら、モジュール(コース)、プログラム(学科)、スクール(学部)、大学全体といった階層別の質保証についてわかりやすくお話しいただきました。

第2部のパネルディスカッションは、3人の方から話題提供を頂き、その後会場からの質疑に答える形で進められました。

まず、財団法人大学基準協会大学評価研究部部長の工藤潤氏から、「内部質保証のこれからー認証評価機関の立場からー」と題して、大学に求められる質保証、内部質保証の3つの側面(機関、プログラム、授業)についてご講演頂きました。

続いて、立命館大学大学評価室事務局長の米山裕教授から「立命館大学における質保証取組の現状と課題: 大規模私立大学の試みとして」と題して、立命館大学の事例に即しながら、大規模私立大学における質保証の課題についてご講演頂きました。

さらに本学大学評価長公文博教授による「法政大学における内部質保証」と題する講演が行なわれ、本学におけるこれまでの活動と今後の課題について報告がありました。

大学における「質保証」は高等教育関係者にとって高い関心事となっています。大学評価室では、本年2月に、米国の大学を訪問し、調査研究を実施しました。2012年度はこれらの成果に基づくシンポジウムを予定しております。なお、報告書のレジュメは大学評価室ホームページで公開しております。



全体の様子

## 2011年度自己点検・評価報告書を刊行しました。

3月に2011年度の自己点検・評価活動の成果をまとめた「2011年度自己点検・評価報告書」を刊行しました。各学部等の自己点検結果、大学評価委員会の評価結果を記載しています。報告書は各運用単位の責任者に配布したほか、大学評価室ホームページでも公開しています。

## 2011年度卒業生アンケートを実施しました。

3月24日の学位授与式において卒業生・修了生アンケートを実施いたしました。本年度で4回目の実施となります。調査結果は次号でお知らせいたします。

## 2012年度の自己点検・評価活動がスタートしました。

3月22日に、学部長・大学院研究科長を対象とした2012年度の自己点検・評価活動に関する説明会を開催し、実質的な活動がスタートしました(4月12日には研究所を対象に説明会を開催)。

また、4月19日には、第1回自己点検委員会が開催され、今年度の基本方針が承認されました。

## 付属校学校評価研究会報告書がまとまりました。

付属校学校評価研究会(座長: 中村勉 二中高副校長)の研究報告書がまとまり、点検評価企画委員会、学校長会議で報告されました。報告書では、計5回の研究会と他校へのヒアリング調査等を踏まえ、「学校自己評価の公表についての考え方」、「付属校学校自己評価の公表の方法」、「外部から評価を受ける体制」について提言がまとめられています。

報告書をご希望の方は、大学評価室までご連絡ください。

## お知らせ

4月の人事異動において、大学評価室課長が、山田佳男課長から佛坂公子課長に交代となりました。



2012年度から総長室付大学評価室課長を拝命しました。直近では国際交流センターにて学生と接する仕事をしておりましたので、学生窓口のないとても静かなオフィス環境にまだ戸惑っています。しかしながら、自己点検活動における先生方の真摯な対応を拝見し、また、本号の国際文化学部長インタ

ビューにも同席・拝聴させていただき、オフィスは静かでも、本学の教育の質向上が学生に還元される過程に少しでも関われるかもしれない、と意欲を新たにしています。今後ともよろしくお願いいたします。(佛坂)